

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4091100109		
法人名	有限会社 ベストライフ		
事業所名	認知症対応型共同生活介護 若久福祉の里 1階・2階グループホーム		
所在地	〒815-0042福岡県福岡市南区若久4丁目8-1		092-555-3386
自己評価作成日	平成24年3月16日	評価結果確定日	平成24年04月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

若久福祉の里は23年4月10日に開設1年を過ぎようかとしています。運営理念「福祉・人権・環境・教育・平和は皆平等の精神で地域社会に貢献できる介護施設を目指します」とモットーの「心こそ大切なれ」を毎朝唱和し1日のスタートをしています。閑静な住宅街にあり天気が良い日は散歩行い、散策やふれ合いを重視し又、地域の催し物への参加、「〇〇したい」を実施できる介護を行っています。どなたでもご利用していただけるように、心のこもった介護サービス、日本一低料金で地域の皆様に喜んでいただけるように、努めています。

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=40
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

福岡市南区郊外の住宅街の中に、有料老人ホーム、小規模多機能ホームと併設で、2階建ての1階部分に、2ユニットのグループホーム 若久福祉の里がある。「心こそ大切なれ」という代表のグループホームに対する思いを職員間で理解し、利用者や家族の心を大切に日々の介護に取り組み、料金設定に配慮し、だれでも利用できる事業所を目指し、職員全員が一丸となって努力している。複合型福祉施設の利点を活かし、開設1年ではあるが、地域との交流も始まり、区長や民生委員の協力を得て、地域との信頼関係が少しずつ始まっている。また、利用者の健康は、定期的な訪問診療と歯科の往診で、24時間医療連携体制に結び付く工夫が見られ、家族との信頼も少しずつ始まっているグループホーム 若久福祉の里である。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5-27		093-582-0294
訪問調査日	平成 24年04月03日		

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+-) + (Enter+-)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「福祉・人権・環境・教育・平和は皆平等の精神で地域社会に貢献できる介護施設」を目指します。を理念に地域の皆様どなたでもご利用いただけるように毎日の申し送りで唱和し、職員一同確認意識づけをしている。	運営理念を毎日の申し送りで唱和し、職員間で共有し、「心こそ大切なれ」というモットーを大事にしながら、入居者一人ひとりの立場にたった介護サービスを実践している。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ご利用者様の散歩の際に積極的にコミュニケーションをとっている。お花を届けていただいたり、ご利用者のご家族の梅ちぎりに行ったり関係が出来つつある。又、資源回収に協力させていただいている。	開設2年目を迎え、併設の小規模等と協力し、地域行事に参加したり、自治会の総会に参加し挨拶を行なう等、信頼関係を築く努力をしている。また、地域の方からお花を頂いたり、資源回収の協力等、少しずつ地域との交流も始まっている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日常のご相談を頂くのでお話を伺いながら一緒に手立てを考えている。認知症の方への対応などアドバイスさせていただくこともある。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、事業所の概要や、ご利用者の状況、行事などを説明。報告で終わらないよう、いろいろな助言を得て、回数を増やせるように努めたい。次回外部評価結果については報告を行う。	会議は、家族、自治会長、民生委員、行政職員、地域包括支援センター職員の参加のもと、2ヶ月毎に開催されている。地域や行政からの情報、意見、質問等が出され、活発な意見交換の場となっている。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	サービス利用に関わる事前協議や事故発生時の報告など積極的に連携を取りながら、又、市の職員からの相談、紹介を頂くことが多く事業所からも報告や相談を行っている。	管理者は、行政担当窓口に出向くことが多く、積極的に連携を図り、担当窓口からの紹介やアドバイス等で、協力関係を構築している。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内勉強会を開催し、職員全体が理解できるようにした。言葉なども拘束につながる事を伝えてはいるが不適切な発言等も見られた時には、ただちに注意を行い指導している。	身体拘束廃止のための内部勉強会を実施し、拘束が利用者に及ぼす影響等を理解し、日々の暮らしの何気ない支援の中で、身体拘束や、言葉の虐待などが起こっていないか、職員間で見守り、職員全員で身体拘束廃止を目指している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法律の概略について、施設内勉強会を開催し、職員一同虐待防止に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内勉強会を開催し説明を行った。必要時には家族にもこのような制度があることを伝えている。	現在、成年後見制度の申請中の利用者がいる。入居の契約時に利用者や家族に説明し、理解してもらい、利用者や家族が制度を必要とした時に、いつでも関係機関に橋渡し出来る体制を用意している。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用開始前に、自宅や事業所内において説明を行い締結し、その後不明な点や、不安な事は随時対応している。		
10	7	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所の見学や契約時に苦情処理機関の説明を行っている。又、玄関先に意見箱を準備して常に家族の申し出を聞けるようにし、その都度職員に周知している。	玄関に意見箱を設置し、利用者や家族の要望や苦情を聴きだす努力をし、苦情受付担当窓口を掲示しているが、意見はあまり出てこない。また、家族来訪時に努めてコミュニケーションをとりながら、要望等を聴きだしている。	家族の悩みや心情を察し、家族同士で話し合える機会を設ける等、家族の安心に繋がる工夫をし、意見や要望が聴き出せる環境を作る事が望まれる。
11	8	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	平日頃やミーティングにおいての職員の意見や提案を聞き検討し反映させている。	管理者は、朝、夕のミーティング時や、休憩時間、問題発生時等、課題をその都度話し合い、ホーム運営に反映出来るように努力している。また、職員の悩み、心配事等についても、相談できる環境を少しずつ整えてきている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個別に勤帯の希望、要望をかんがみ一人一人生き生きと勤務できるように努めている。		
13	9	人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	年齢・性別・資格・経験は不問で募集を行っている。又、地域の方の雇用に積極的に取り組んでいる。採用後も職場内外での意欲・講習受講などの申し出により勤務調節するなどの配慮を行っている。	職員の採用条件は、年齢、性別、資格、経験等の制限はなく、働く意欲と、人柄を大切に、出来るだけ近くに住んでいる方の採用を目指している。職員が働きやすい仕事場であるように、環境整備にも勤めている。	職員のやる気と頑張りを活かすための取り組みとして、休憩室や休憩時間を確保し、リフレッシュしながら介護サービスの提供に努めることを期待したい。
14	10	人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	施設内勉強会を開催し説明を行った。利用者の皆様を尊敬・尊重して接して行くように強調し実践している。	利用者の人権を尊重するための介護をどのように実践していくかを、管理者と職員は検討し、内部、外部の研修会や啓発活動に職員が参加し、利用者の尊厳を守る取り組みに繋がっている。	
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に一度の勉強会・外部研修の案内を掲示参加を促し技術・知識の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ケアネットワークの定例会に参加しながら事例検討し、他事業所との交流が深められる場となっている。不明な点は尋ねたり、情報の交換を行っている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	色々な話題で声掛けし、訴えの中から、本人の意向の把握が早急にできるように努めている。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	十分な事前の聞き取り等の準備が出来る時とそうでないときがあるが、親身になり対応できるように努め、時間をかけた事前相談を聞けるよう努めている。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・ご家族の意向をお聞きしながら今、必要としている支援を見極め、他の選択肢の提供などに取り組んでいる。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護者としての責任と自負は持ちつつ、ご利用者の能力や生活歴に応じ、日常生活における作業など出来る限りお互い協力しあう関係であるようにしている。		
21		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との情報交換を行い、面会が難しいご家族は、電話や手紙などで報告し参加できる行事には案内状をお出ししている。		
22	11	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしていた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方の面会や電話は快く対応を心がけ、本人の思いを大切に関係維持に努めている。	利用者の友人、知人の面会は少ないが、職員は心を込めて対応し、利用者が楽しかった昔のことを思い出せるよう言葉かけを工夫する等の支援をしている。また、馴染みの場所に同伴できるよう、家族と協力しながら努力を始めている。	
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	引き籠もりがない様にリビングで過ごして頂けるように配慮し、折り紙、塗り絵などの手作業を一緒にしていただく共同作業を数多く取り入れている。思い違いなどで言い争いになったりするケースもあるので職員が雰囲気変えるように努めたり話題を変えたりしている。		

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
24		<p>関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>退居後も、今後の方向性について相談があったりしている。一度ご縁があった利用者、家族の方には、最後までお世話をさせていただくという思いでおつきあいをさせて頂いている。</p>	
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
25	12	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居後新たな希望などの把握に努め、普段の会話の中からさりげなく話を聞きだし実現できるよう努めている。困難な場合は、ミーティングを密に行って解決に努めている</p>	<p>入居前に、利用者の生い立ちから現在までの履歴を細かく聴きだし記録しているが、入居後、新しい発見をすることも多く、職員は常に利用者寄り添い話をしながら、思いや意向の把握に努めている。</p>
26		<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>面談や電話で本人や家族の話を伺い、今後の生活環境や生活を垣間見させて頂いている。</p>	
27		<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>本人の言葉や訴えや生活歴等を面談によって、家族にも確認し、入居後は日常生活の中の会話の中で拾い上げている。</p>	
28	13	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>相談者、主治医等の専門家と相談しながら必要があれば、ケアの方向性の提案をさせて頂き、本人、家族の同意の元計画づくりを行っている。</p>	<p>介護計画は、利用者や家族の希望を取り入れ、ケアマネージャーが取りまとめ、3ヶ月毎に作成している。利用者の状態に変化があった場合には、家族と連携をとりながら、その都度介護計画を見直している。</p>
29		<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>本人のありのままの言葉を残す、対応した様子を詳細に記録に残す。又、記録忘れを失くす指導を行っている。カンファレンス・ミーティング・モニタリングを通して情報共有し実践している。</p>	
30		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>発病時の往診・訪問診療・訪問歯科等を紹介している。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>運営推進会議等で情報を収集し地域の行事等参加している。</p>		
32	14	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入居時に本人や家族の希望を聞き対応している。入居後の受診においても家族に相談や報告をしながら必要に応じて訪問診療、訪問歯科受診等を行っている。家族の希望医があれば受診をお願いしている。</p>	<p>利用者や家族の意向を尊重し、かかりつけ医の受診を支援している。また、訪問診療、訪問歯科の往診が定期的であり、利用者の健康管理の支援体制が確立されてきている。</p>	
33		<p>看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>介護職員、看護職員情報交換を密にし協力医療機関と連携を取りながら利用者が安心できるように支援している。</p>		
34		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>医療機関、家族との情報交換を行い、ADLの低下や認知症の進行等協議しながら相互の関係が円滑とあるように取り組んでいる。</p>		
35	15	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>今後の方針として、勉強会等により介護技術の向上に努め看取り介護できる体制を整えて行きたい。</p>	<p>利用者の重度化に向けて、利用者や家族の意向を聴き取り、利用者の重度化に向けた支援体制を構築中である。また、居宅療養管理指導をとり、24時間の医療連携体制をとりながら、職員のレベルアップを目指している。</p>	
36		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変時のマニュアルは全員周知徹底し常時見られるように設置している。救命士からの講習会を24・4に予定している。事故発生時は看護師との連携をはかっている。</p>		
37	16	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>消防訓練を年に2回開催している。近隣の方にはお知らせ配布し協力の呼びかけを行っているが具体的には出来ていない。</p>	<p>防災訓練を併設事業所と共同で実施し、非常口、避難経路、避難場所の確認を行い、いざという時に備えている。また、災害時に備えて、非常用備品、飲料水、食料等の用意をしている。</p>	<p>非常災害時の近隣住民の協力体制は重要である。近隣住民に避難訓練に参加してもらえるよう声掛けを行い、また、地域防災協定を結ぶ等、地域と協力しながら非常災害に備えていくことが望まれる。</p>

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「心こそ大切なれ」をモットーにプライバシーの保護に努めている、排泄の事や職員間でご利用者個人の事を話してしまう事があるのでその都度職員に指導している。	オーナーの持論である「こころ」を大切に、利用者一人ひとりのプライバシーの確保と、優しく、気配りのある声かけを職員一人ひとりが理解して、取り組んでいる。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望や要望を伝えていただけるように傾聴している、できる範囲で自己決定できるように配慮している。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人のペースを大切に、起床、日中の過ごし方、就寝等ゆっくりとした生活ができるよう配慮に努めている。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に1回訪問理美容に来ていただいている。ご利用者の要望を取り入れ好きなヘアースタイルにいただいている。行事や誕生会等の時には、化粧等をしていただいている。又、起床時には、洗面やブラッシング等の支援を行っている。		
42	18	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理(下ごしらえ)食器やお盆拭き、おやつ作りの手伝いをお願いしている。好きなご利用者には積極的に取りいれている。又、なるべく全員そろって食事している。	利用者の残存能力に合わせ、食事の準備や片付け等を手伝ってもらい、職員は利用者と同じテーブルで同じ料理を食べながらの楽しい食事風景である。また、職員が作る料理は、味、色合い、形、量などに配慮し、心のこもった御馳走である。	
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取、水分も個別に記入している。ご利用者に応じた食事形態で常食からミキサー食まで対応提供している。		
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い記録を残し、磨き直しの支援も行っている。訪問歯科を利用し治療や義歯の手入れ等指導いただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	19	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックシートにて24時間の排泄を管理している。尿、便秘ない方は定時誘導している。排泄チェックシートに記入をしパターンをつかんでいる。	職員は、利用者の排泄パターンをチェックシートで把握し、さりげない声かけや誘導で、排泄の自立に向けた支援をしている。また、紙パンツから布パンツへ改善された利用者もいて、自信回復に繋げている。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックシートをもとに便秘がちになりやすい利用者には、水分補給、散歩、運動を促している。		
47	20	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1日おきの入浴で午後より予定している。体調不良等の都合で入浴できなかったりする時にはご利用者の希望に合わせて予定外の入浴も行っている。	入浴は、利用者の楽しみの一つであり、ゆっくりと入ってもらうために一日おきの入浴になっているが、利用者の希望を優先し、毎日入ることも可能である。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人のリズムや希望に応じて休んで頂いている。眠れない方はリビングでテレビを見たり会話やお茶を飲み過ごしていただいている。朝食の声かけで「まだ起きたくない」と希望があれば時間をずらしたりして支援している。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理が出来ない方がほとんどであるため施設で管理し手渡しや飲み込む確認を行っている。又、職員全体が目的や副作用までは理解しているとは言えない。個別に薬説明書をいつでも見れるようにし服薬介助のサインを記録状態の変化に気をつけ、異変がある時は看護師に指示を受けている。		
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の嗜好に合わせて、ベランダにてプランターを置きゴーヤやキュウリの栽培から収穫まで行っている。又、得意の大正琴の演奏から、カラオケ、あみもの、おやつ作り、お手伝い(茶碗拭き・おぼん拭き・洗濯物たたみ等)をしていただいている。		
51	21	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域のプラスバンド演奏会や夏祭り等ご利用者の希望にそって参加させていただいている。天気の良い日は気分転換を兼ねた散歩に行ったり玄関横のプランターの花や畑の野菜を見るなど支援している。	利用者の状態変化や、残存能力に配慮しながら、日常的な散歩、買い物同伴、花壇の手入れ等、無理のない範囲で、戸外に出かける支援をしている。	気候が良くなるこれからの季節を、太陽の光を浴びて、五感で季節を感じながら日々の暮らしにメリハリをつける外出の支援を始めることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>自分でお金を持つことに安心される方は少ない金額で所持されています。</p>		
53		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>文字を書けなくなったり自信をなくした方々は文字の練習から始め、家族等に連絡を取りたい方々は、家族の了解を得て実施している。</p>		
54	2.2	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>季節感を取り入れた掲示物、浴室は温泉マークや温泉ののれんをつけて気分を味わっていただいている。テレビやCDのボリューム、気温等その時の状況に応じた対応を行っている。</p> <p>換気は、10時 12時 15時行っている。</p>	<p>2階建ての複合型福祉施設であるが、1階、2階の一部がグループホームとして、家庭的な雰囲気になくするために、職員のアイデアや努力で、利用者が楽しめる居心地の良い共用空間を目指している。</p>	
55		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>好みの椅子やソファを利用し、利用者同士が会話を楽しむ場面がみられている。</p>		
56	2.3	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ベット・マットレス以外の衣装ケースや仏壇等日常生活を円滑に営む物は利用者に準備して頂く。但し、冷蔵庫・ポットは、施設で準備し共有している。</p>	<p>居室は、利用者の使い慣れた馴染みの物を、家族の協力で持ち込んでもらい、筆筒、仏壇、テレビ等、自宅と違和感のない雰囲気、居心地の良い居室になっている。</p>	
57		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>廊下、階段、トイレ、浴室、玄関前のスロープにも手摺を設置。施設内外、バリアフリーを基本とし、自分の有する力で安全に移動できるように配慮している。</p>		